

下野教育

栃木から発信する確かな教育



明治17年創刊

No. 759
平成30年11月号

大志に生きる

3・11が教えてくれたもの

映画監督 安孫子亘

特別寄稿 「特技とともに生きる」

画家・絵本作家 やまなかももこ



実践記録

○「二十一世紀を見据えた幼児教育を目指して」

(学法)認定こども園

上三川町立北小学校 バンビ幼稚園

○自己を見つめ、主体的・対話的に

○生徒自らが考え、主体的に学習に取り組み、自分自身の成長を

学ぼうとする児童の育成
実感できる道徳の授業づくり

上三川町立北小学校 日光市立東原中学校

○新たな時代をリードする人材育成に向けた取り組み

栃木県立石橋高等学校

卷頭言

高大接続改革の進展に思う

栃木県高等学校長会長 大橋芳樹

連合教育会だより

- 日本連合教育会研究大会「桐生大会」の報告
- 平成30年度実践研究奨励援助事業
対象校決定

論説

「特別の教科 道徳」について考える

宇都宮大学大学院教育学研究科准教授 和井内良樹

第6回防災教育研修会

被災地(富岡町・楢葉町・いわき市)に学ぶ

おあしす

『蒲生君平生誕250年記念古墳祭り』に参加して

宇都宮市立豊郷中学校長 桶川佳寿子

栃木県連合教育会

「二十一世紀を見据えた 幼児教育を目指して」

（学法）認定こども園 バンビ幼稚園副園長）

鈴木千春



★はじめに

本園は、昭和五十五年に「学校法人 盛光学園 バンビ幼稚園」として開園し、新制度が開始された平成二十七年に幼保連携型認定こども園バンビ幼稚園として新たな出発をしました。



本園のある栃木市藤岡町は、栃木県南端部に位置し、地区の南には貴重な動植物が数多く生息する、日本で最大級の渡良瀬遊水地が広がっています。園の周辺は、自然豊かで、ザリガニ釣りのできる小川や、トトロが棲んでいると信じている“トトロの森（愛称）”、由緒ある大前神社がバンビ幼稚

園を見守ってくれています。

★認定こども園バンビ幼稚園 教育・保育目標

認定こども園 バンビ幼稚園教育・保育目標	
 知 をはぐくむ ~考える力・決断力~	 心 をはぐくむ ~感動・愛・思いやり~
 感 をはぐくむ ~感性・五感~	 個・芽 をはぐくむ ~一人ひとりが主役・自立心~
 食 をはぐくむ ~食に興味を持つ・事を食べる (嬉しかった事/悲しかった事/つらかった事)~	 芽 をはぐくむ ~意欲・想像力・創造力~
 輪 和 をはぐくむ ~つながり~	 体 をはぐくむ ~健康・生きる力~

★実践の前に

20年後の未来、つまり今の子ども達が社会人として活躍している時代は、AIやロボットが人間よりも活躍しているだろうと言われています。また、今ない職業がたくさんあり、将来の変化を予測することが困難な時代がやってきます。

その社会で生き抜くためには、社会の変化に主体的に向き合って関わり合い、自ら問いを立ててその解決を目指す。他者と出会い、協働し支え合いながら、よりよい社会と幸せな人生を自ら創り出していく力が必要になるでしょう。そのために、私たちはどのような教育・保育をしなければならないのでしょうか。

★認定こども園バンビ幼稚園で大切にしている事

○子どもが「人間らしく」「子どもらしく」生きる

『子どもが遊ぶということは大袈裟にいえば、つまり子どもが生きているということと同じ意味であるといつてもいいのです。』（倉橋惣三さんの「幼稚園はいかなる所か」の中より抜粋）



○生活を豊かにする

日本の四季の自然や行事に触れ、日本の良さを知り、受け継ぎ、引き継いでいってもらいたいと思っています。やらせではない生活から生きていくことを学んでいってほしいのです。

○遊びは生きる力

子どもの「遊び」こそ「学び」であり、「遊び」の中から「学び」を得ていきます。その「遊び」＝「学び」を振り返り、その活動一つ一つに意味づけをしていきます。それが、子ども達一人ひとりの「学びの物語」となっています。



や「願い」を応援し、子どもの持つ能力・魅力や可能性を最大限に引き出すことが役目だと思っています。

○自然の体験＝原体験

園周辺の環境はとても自然豊かです。自然は「偶然」「発見」「探求」の宝庫です。その中で感覚をフル稼働させ、心の可動域を広げます。そして、私達の「原体験」となって一生を支えてくれるものですから、自然を大切にし、守り続けていきたいと思っています。

★実践例『一人ひとりの好きが、みんなの好きに』

20年後を見据えた保育Ⅱ認定こども園バンビ幼稚園で大切にしている『遊びは生きる力』の実践、子どもをまんなかにおいたプロジェクト『一人ひとりの好きが、みんなの好きに』をご紹介します。

年少さんの2月。一人の恐竜好きの子がお菓子の空き箱を使って恐竜作りを始めました。図鑑を見ながら、できるだけ本物に近づけるように自分で廃材選びや、立体を作る方法を先生に尋ねながら夢中になっていました。毎日毎日様々な恐竜を作り続ける姿にクラスの友達も興味を惹かれ始め、それぞれに作り出しました。年中組に進級し、クラスの友達も変わり不安の4月。心の安定と、新しい仲間とのつながりを感じてほしくて、年少組の時に大好きだった「恐竜」をテーマに遊びを設定していくことにしました。

恐竜の骨の平面図を置いておくと、園庭から発掘してきた石を平面図に照らし合わせながら、「この石とこの骨の形と似ているからやつぱり化石だつたね」と大喜びする子ども達の姿がありました。



「本物の大きさくらいの恐竜が作つてみたい」という子どもの思いは膨らんでいきました。保育者は、せっかくだから新しい素材で作つてみようと悩みました。そこで考えた案は、市場の知り合いにマグロの骨を譲つてもらうことになりました。



福井県にある恐竜研究所に行つてきた子の発案で、骨をコンクリートに埋めて、固まつたら金鎧で叩いて骨を発掘する、そしてその骨が平面図のどの部分に形が似ているかを調べるという遊びへと発展してきました。まさに、リアルな恐竜パズルでした。

しだいに石の形では骨と形が違う、ということに気付きました。そんな時、ある男の子が家から「サンマの骨」を持ってくれました。それが子ども達に広がり始め、「ホッケの骨」、「タイの骨」、「ケンタッキーの骨」などが次々に集まり始めました。



マグロの骨を使って本物みたいな恐竜の化石作りが始まりました。骨を針金で通して背骨の部分を作ったり、しつぽにしたり、ようやく完成した本物みたいな恐竜の化石。

子ども達、保育者、保護者とともに作り上げた6か月もの長い間続いた「恐竜プロジェクト」。

子ども達の大満足と誇らしげな姿は、大きな力となつて今後につながっていくのだと思いました。

★実践を終えて

「恐竜」という一人の大好きなこと、得意なことを友達や先生が認め、生かせる場を設けたことで、友達の良さに気付き、それが広がり共に活動する楽しさを味わいました。また、発掘ごっここのための金鎌や刷毛、マグロの骨という新たな道具や素材が子ども達にとつて魅力あるものとして映つたようです。そして、友達と共に活動する中で、共通



★おわりに

幼稚期に、十分な遊ぶ時間、空間、仲間を保障してあげること、そしてその中で自分の大好きな遊びを持ち、毎日にわくわくを感じている子ども達。

ヒト・モノ・コトとじっくりと向かい合い、心が動けば体が動く、そんな体験を積み重ねていきます。自分の毎日への充足感を持つつつ大人になり、その充足感を満たすような仕事を選び、それが誰かに喜ばれるならば、それはまさに「幸せ」でしょう。

子ども時代を振り返った時にキラキラと光っていること、そして幸せ感の強い大人になってくれることが認定こども園バンビ幼稚園の理念であり、強い思い入れでもあります。

の目的を見出し、工夫したり協力し合い、それが子ども達の満足感や達成感へとつながっていく活動となりました。

